

いの町 菊池学園だより (平成29年冬季号)

11月6日、昨年度の菊池先生の活動、菊池学園の取組を撮影したドキュメンタリー映画『ニッポンの教育～挑む 第二部～』（筒井勝彦監督）の完成を、尾崎正直知事に報告してきました。

映画のDVDを贈呈し、藤岡教育長と菊池先生が「菊池学園」や目指している教育観について説明をしました。映画の予告編を視聴して頂いたところ、**ほめ言葉のシャワー**に興味を持たれ、菊池先生に熱心に質問をされ、予定時間を超えて懇談を終えました。

最後に『DVDを拝見します』とおっしゃり、今後県内各地で行われる上映会を応援するとのお言葉を頂きました。12月16日からは東京の「ユジク阿佐ヶ谷」で終了時期未定のロングラン上映が開催され、今後全国各地での上映が行われます。映画専門誌「キヌマ旬報12月号」でも紹介されており、いの町への注目が集まることでしょう！

左から藤岡教育長、久松副町長
菊池先生、筒井監督、尾崎知事
岡林観光協会会長



今年度の新たな取組として、ほけん福祉課と連携し菊池先生を講師とした『介護事業所研修会』を9月と11月の2回（18:30～20:00）行いました。講話のなかで菊池先生が「労働には3種類あると言われています。肉体労働と頭脳労働とあと1つあります。介護職員の皆様や教師もこれに当たるのではないのでしょうか。」とおっしゃいました。答えは**感情労働**でした。これを聞き、皆さん納得されていました。

施設利用者や子どもなど直接「人」に関わる仕事は、相手の感情（気持ち）を受け取ること、自分の感情（気持ち）を伝えることが重要です。そのために必要な力が『**コミュニケーション能力**』です。参加者の皆さんと一緒に、そのことを改めて感じた研修でした。



9月開催時（参加者70名）



11月開催時（参加者76名）

いの町 菊池学園だより (平成29年冬季号)

12月5・6日、インクルーシブ教育の実践校「みんなでつくる、みんなの学校」として12年前に開校した大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生が来町されました。菊池先生と一緒に学校を訪問し、教職員研修会で講演して頂きました。2日間一貫しておっしゃっていたのは『その子どもを変えるには、周りの子どもを変える』と『主語を教師から、子どもに変える』でした。『子ども同士を繋ぐことが教師の役割であり、繋がれば自然と子どもは学びに向かう』ともおっしゃり、菊池学園の取組の目的である「関係性を築く」ことは、インクルーシブ教育につながることも分かりました。



【伊野小学校での授業】



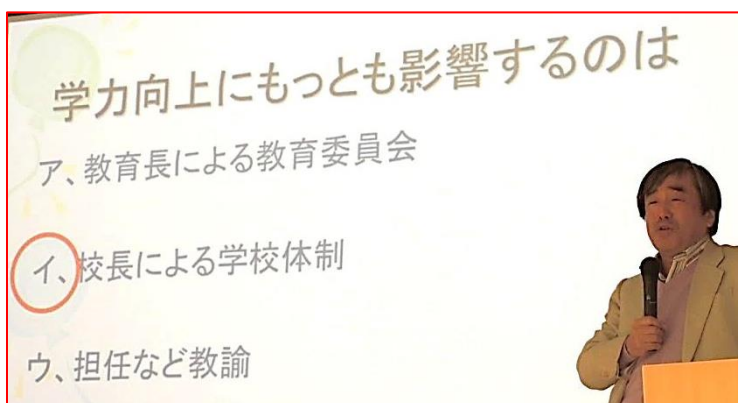
【池田町長、藤岡教育長、山崎次長も参加した講演】

12月9日、「第2回 菊池省三先生との教師のたまごセミナー」を開催しました。午前には「挑む～白熱する教室・第一部～」を上映、午後は特別講師として陰山英男先生をお招きしました。陰山先生は「百マス計算」等の徹底反復で基礎学力向上を目指す「陰山メソッド」を確立され、前立命館小学校副校長でもありました。特別講演「基礎・基本からの学力向上」では、驚きの漢字学習法を教えてくださいました。また、公立小学校長や私立小学校副校長を経験されたことを踏まえ、学力向上にもっとも影響するのは『校長による学校体制』であるとおっしゃいました。(下左図)

対談では「いま、教師に求められる力とは」についてお話しいただきました。お二人ともまず『見る目』を挙げられました。具体的に陰山先生は『①子どもの分析、②国の動向などの分析、③自分に関する分析』を、菊池先生は『①学び続ける力、②教師の見る目、③向上心』でした。

対談の最後に「基礎基本とコミュニケーションのどちらが、大事か」という問いに対して、お二人とも「両方大事なのは当たり前」と答えられ、陰山先生は「2項対立するものは全くない。対立するものを両立させるのが仕事。すべては矛盾するものを両立させる。」菊池先生は「(2項対立で考えてしまうと)正反合せいほんごうの合に行かなくなる。」とおっしゃいました。

子ども同士の関係性、子どもと教師との関係性を築くこと、効果的な指導法の授業を行うことの両立(自他共栄)を目指して、これからも菊池学園の取組を進めていきます。



【陰山先生の特別講演より】



【菊池先生と陰山先生の対談】